

メッセージタイトル：「キリストのからだの特徴 ABC」

みなさん、おはようございます！ さて、今朝のメッセージタイトルは「キリストのからだの特徴 ABC」です。ABC というのは初歩や基本という意味です。キリストのからだについて一緒に学んでいきましょう。メッセージの箇所はエペソ人への手紙4章15節と16節です。この箇所を2つのポイントに分けました。1つめのポイントは15節から「リーダーはキリスト」。2つめのポイントは16節から「わたしたちはからだ」です。

メインポイント①：リーダーはキリスト 1つめのポイントからみていきましょう。リーダーはキリスト。私が大学生のとき、近所のダイソーでアルバイトを始めました。店長がとても厳しく、最初の1ヶ月はよく叱られていました。職場もいつもピリピリしていて長くは続かないと思っていました。しかしあるとき知らせがあり、店長が他の店に移り、エリアマネージャーが時々お店に来る形に変わりました。店長のいない職場はがらっと雰囲気が変わりました。アルバイトのみんなはエリアマネージャーが来ない日だとわかると、表情や態度が緩みました。私もバックヤードで同僚とおしゃべりを楽しみましたし、商品の発注や陳列なども自分の好みにできました。終いには有線放送を好きなチャンネルに変えて好きなミュージシャンの曲ばかり聞いていたときもありました。店長がいなくなったことでのびのびと働くことができた反面、適度な緊張感はなくなりました。振り返ってみると、リーダーがいるかないかでその組織やグループは大きく変わるということを経験しました。みなさんもそんな経験があるのではないのでしょうか。

15節で「キリストはかしらである」と教えています。つまりキリストがリーダー、キリストが店長ということですね。ではこのかしらという言葉について聖書から見てみましょう。

かしらとは文字通り頭、英語では head です。またギリシャ語で *kephalé* といい、聖書の他の箇所でも度々見られます。かしらが実際の頭をさして使われることもあります。この15節では比喩として使われています。キリストのからだにおいて、キリストがもっとも重要な存在、つまりリーダーであると伝えています。キリストはどのようなリーダーでしょうか。ケファレというギリシャ語が使われている聖書箇所を見てみましょう。エペソ1章では「**神はキリストをすべてのものの上につかかしらとして教会に与えた**」とあり、コロサイ2章では「**キリストはすべての支配と権威のかしらです**」と説明しています。キリストのリーダーとしての力がこの2箇所からあらわれています。ペテロの手紙第一2章で「**家を建てる者たちが捨てた石、それが要の石となった**」という言葉が出てきます。この要がケファレというギリシャ語の訳で、新改訳第3版では礎の石という訳でした。ですからキリストはリーダーであり、要であり、礎であるということです。キリストはキリストのからだのかしらである。当たり前のことのように感じますが、とても大切なポイントです。念のため確認ですが、教会のかしらは誰でしょうか。牧師でも長老でも役員でもありません。教会のかしらはもちろんキリストです。わたしたちはこのキリストに向かって成長していきます。

メインポイント②：わたしたちはからだ 2つのポイントの1つ目を見てきました。では2つめのポイントを見ていきましょう。16節です。「**キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つながりあひ働き合はれ、それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることとなります**」わたしたちはキリストのからだです。そしてからだのたくさんの部分がからだとしてつながりあひ働き合はれているように、キリストのからだであるわたしたちも互いにつながり、組み合わされ、働きあひます。エペソ書やコロサイ書で著者パウロは「**教会はキリストのからだ**」であると語っています。教会とは教会堂のことではありません。教会と訳されているギリシャ語は *エクレシア*。キリストを信じる人の群れを指します。「キリストのからだ」と聞いて教会堂を思い浮かべるのではなく、クリスチャンの群れ、クリスチャン一人一人を思い浮かべるようにしてくださいね。この箇所からからだの特徴3つを ABC でまとめてみました。ABC、つながり、賜物、愛

です。

キリストのからだの特徴A：つながり まず特徴のAであるつながりから見ていきましょう。「**からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、**」からだは関節によってつながっています。からだを構成する器官はいくつもあります。おおまかにわけてみましょう。胴体、右腕、左腕、右脚、左脚、そして頭。各部分は関節によってつなぎあわさされていて、切り離すことはできません。もしからだから離れてしまった部分があれば、その部分はどんどんと弱っていくでしょう。ローマ12章には次のようにあります。「**一つのからだには多くの器官があり、しかも、すべての器官が同じ働きをしてはいないように、大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとは互いに器官なのです。**」ここでもわたしたちはからだの中の各器官であると言われています。また第一コリント12章では「**神はみこころにしたがって、からだの中にそれぞれの部分を備えてくださいました。もし全体がただ一つの部分だとしたら、からだはどこにあるのでしょうか。しかし実際、部分は多くあり、からだは一つなのです。**」と、神様がからだのそれぞれの部分を備えてくださったとあります。

からだはひとつであり、部分は多くある。この2つの聖書箇所の前後を見ると、教会がバラバラな状態だったという背景がありました。パウロは「キリストのからだ」を強調して、教会がひとつとなるように訴えました。脚はどのような役割があるのでしょうか。立ったり、支えたり、歩いたりする役割があります。また腕は投げたり、作ったり、書いたりします。胴体は腕や脚を支え、自然に身体が動くように調節します。各部分で役割が違いますね。ですが、どれもひとつのからだにつながっている各器官です。**大事なことはわたしたちがキリストのからだにつながっているということです。わたしもあなたも彼も彼女もキリストのからだにそれぞれつながっているということです。**からだはバラバラではうまく動きません。右腕があっちに行って、左脚があっちに行ってしまうと身体が引き裂かれてしまいますね。それぞれが自分の思いのままに動くとき、からだはからだとして機能しなくなります。わたしたちはキリストのからだとして互いにつながっていて、切り離すことはできないということをお覚悟しましょう。これがキリストのからだの特徴Aです。

キリストのからだの特徴B：賜物 次の特徴Bに移りましょう。賜物です。「**それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、**」とあります。わたしたちひとりひとりには賜物が与えられています。キリストのからだにおいてその賜物を使うことを神様は願っておられます。賜物というと特別なものを思い浮かべるかもしれませんが、そんなことはありません。思いつく限り挙げてみましょう。代表的なものとして司会の賜物、説教の賜物、指導する賜物、賛美の賜物、子どもたちを教える賜物などがあります。またいつも笑顔であいさつすること、お金の計算や管理が上手なこと、整理整頓すること、掃除をすること、楽しい時間を導くこと、人の話を聞くこと、体力があることなどたくさんありますね。クリスチャンプレイズチャーチの一人一人にも神様が素晴らしい賜物を与えてくださっています。すでにみなさんは教会の中で礼拝や牧場でその賜物を使っていらっしゃると思います。また来年度の奉仕についても祈りながら準備されていますよね。ぜひ一緒に賜物を用いて、キリストのからだなる教会を立てあげていきましょう。

ただ注意点があります。パウロは「キリストのからだ」のコンセプトをいくつもの教会に伝えなければいけませんでしたが、なぜなら教会の中で賜物の大きさや使い方によって分裂が起こっていたからでした。神様が賜物を与えてくださっているのに、その使い方や態度によって教会をバラバラにしてしまうということです。賜物を用いることはもちろん大事ですが、自分の賜物ばかりを主張すると、それは自己満足、自己実現のための働きとなります。あなたの賜物はレベルアップしても、キリストのからだは成長しません。それどころか、自分の賜物を自分のものとして使おうとすればするほど、キリストのからだにダメージを与えてしまいます。ひどくなると思い上がりや批判、怒りや無理解をキリストのからだにもたらし、いずれはからだを破壊してしまいます。自分の賜物をよく理解することともに他の方がどのような賜物を持っているのか、またどのように協力することができる

のかに目を留めましょう。

先月こうた先生と時間を作り、キャッチボールをしたことがありました。私はサッカーしかしてこなかったのでボールの投げ方を浩太先生に教えてもらいました。そのときに気がついたことがあります。自然体が一番ボールを上手に投げることができたということです。右手でボールを投げようと振りかぶっているのに、左手や他のからだの部分がなにもしなかつたらどうですか。ボールを投げることはもちろん上手にできませんね。ひとつの動きをするとき、からだ全体が連動してその動きが成り立ちます。右腕を振り上げると、左腕は自然にそれを支える位置に移動し、左脚は自然に上に持ち上がり、右脚はしっかりと立ちますね。同じように**キリストのからだもひとつの働きのためにある部分が動けば、他の部分が連動してその働きを助けます**。もう少しわかりやすく説明してみましょう。例えば、この1年間アワナの小学生部では先生のみなさんと一緒に準備して取り組んできました。私、レディさん、ウンへ、やよいさん、まさかずくん、メイナさん、マリンさんの7人がキリストのからだでした。それぞれ賜物があります。主に私やレディさん、ウンへはメッセージを担当し、まさかずくんはゲームを担当し、やよいさんが事務のお仕事を担当し、メイナさんは賛美を担当し、マリンさんはクラフトを担当しました。また自分ができることだけではなく、したことのない役割にもそれぞれチャレンジをしました。一緒に長く働いていると、みなさんのすばらしい部分が見えてくるようになり、できるだけその部分が輝くように周りもサポートします。それがキリストのからだの連動であり、自然体であるということですね。キリストのからだの中で互いに賜物を用いると、そこには喜びがあり、そこには成長があります。

また16節をよくよく見てみると「各部分はその分に応じて働く」と書いてあります。when each part is working properly, 英語を訳すとそれぞれの部分が適切に働くときとなります。Properly はギリシャ語を見ると μέτρον メトロローで名詞メトロンはメジャー、量りの意味があります。エペソ4章7節「しかし、私たちは一人ひとり、キリストの賜物の量りにしたがって恵みを与えられました。」これはどういうことでしょうか。その分に応じて働く…なるほど、これは自分に与えられた賜物の量に従って働くということです。自分一人だけがむしゃらに一生懸命動くことではないということなんです。自分だけ無理してがんばろうとしないでください。例えば、キャッチボールのときに右腕だけでもすごい力をこめてボールを投げようとしてください。ある程度は遠くへ飛ばすでしょう。ですが、それを続けるとどうなりますか。からだ全体が右腕を支えていないため、右腕だけに負担が大きくなり、右手首やひじを痛めてしまうかもしれません。からだはひとつの部分だけを働かせることはほとんどありません。からだ全体が自然に連動してからだ全体でボールへ力かけるとき、ボールはより遠くへ飛ばすことができます。スポーツをやっている人なら理解しやすいでしょう。これが「その分に応じて働く」ということなんです。キリストのからだの特徴Bをまとめると、わたしたちには賜物がそれぞれあり、キリストのからだのために協力して用いるとき、からだは調和し、成長するということです。Aのつながり、Bの賜物と見てきました。それでは最後のCについて見ていきましょう。

からだの特徴C: 愛 最後の特徴Cは愛です。「**愛のうちに建てられることとなります**」とパウロはこのセンテンスを締めくくっています。やはり愛なんですね。愛すること、愛し合うこと。愛は結びの帯として完全なものです。みなさん、どうですか？クリスチャンプレイズチャーチは愛のあふれる教会でしょうか？どう思いますか？

私はクリスチャンプレイズチャーチに通い始めて、12年が経とうとしています。10年以上ひとつの教会にいるいろいろな姿や形が見えてきますね。クリスチャンプレイズチャーチの特徴はよく互いに助け合う教会だと私は考えています。5年ほど前から家の教会が始まりました。そのおかげでコロナ禍の3年間も牧場ごとの集まりにより、教会の中から愛が消えることがありませんでした。私たちはいつも困ったときに助け合ってきました。このことは本当に感謝なことです。多くの教会は昼食会やお茶会がコロナのためになくなったことで、親密な交わりが絶たれました。教会から交わりがなくなると、それはもはやキリストのからだではなくなります。多くの教会が交わりをなんとか確保しようと努力されていたことと思います。私たちはこのような難しい時期だからこそ、ますます牧場で愛を深め合うことで、キリストのからだを建てあげてきました。

愛がキリストのからだのエネルギー源です。原動力です。源です。この例えが適切はわかりませんが、キリストのからだにおいて愛は血液のようなものだと思います。心臓からスタートした血液は足の爪先から頭のとっぺんにまで全身に送られ、それぞれの部分が生き活きと働きます。愛がもう少しなくなると全身を循環する血液が少なくなり、働きは衰えていきます。愛することはキリストのからだを健康に動かすということです。ですから愛し合い続けましょう。愛が耐えることのないようにしましょう。

ひとつ、愛について注意しなければいけないことがあります。私たちは人の愛と神の愛とをはっきりと区別しなければなりません。人の愛には限界があります。神の愛には限界はありません。ひとり子であるイエス様を十字架にかけられた。ここに神の愛が示されています。十字架で示された愛は私たちにとって神の愛のあらわれであり、完全な愛の模範です。私たちは限りのある存在ですから、この完全な愛を実践することはできません。ですが、この神の愛に促されて、動機づけられて人を愛することができます。人の愛では難しい領域があります。自分を傷つけたものを赦すことは難しいことです。見返りを求めないで与えることは難しいことです。自分を喜ばせず神を喜ばせるために助けることは難しいことです。自らが一方的に大きな犠牲をはらうことは難しいことです。ですがこれら人の愛では難しいことでも、神の愛であれば可能になります。私たちは愛のアクションをするとき、神の愛に応答して行っているか、私のうちにある人間的な愛情によって行っているのか、心をいつも点検しなければなりません。人間的な愛情はいつかすぐに枯れます。犠牲が苦しくなります。相手を責め始めます。心に平安がなくなります。人の愛ではなく、神の愛によって愛しましょう。そのために日々十字架に立ち返り、罪赦されたことを感謝し、神の愛に目をとめることが大切になります。

パウロはこの箇所の続き、17節から32節までの間に「愛する」ことの勧めをいくつも挙げています。「真実を語る」「憤ったままでいない」「分け与える」「人の成長に役立つことばを語る」「親切にする」「優しい心で赦し合う」などなど。とても具体的で、実践的なことですね。わたしたちも愛を実行していきましょう。この愛が原動力となり、キリストのからだは成長していきます。愛することはわたしたちみな日々学び、失敗と実践を繰り返して成熟していく領域です。愛することにゴールはありません。愛について有名な箇所である1コリント12章をまとめてみると「愛がなければ、賜物は意味がない。いつまでも残る、もっともすぐれたこの愛を追い求めなさい」と言っています。愛のうちに建てられるのがキリストのからだです。

まとめ：キリストはリーダーで、わたしたちはからだ さてメッセージを閉じたいと思います。リーダーはキリストで、わたしたちはからだです。からだはつながっています。からだには賜物がいくつもあり、互いに用いあいます。そしてからだは愛がエネルギーとなって建て上げられていきます。

宣教のスタート地点 教会は「キリストのからだ」です。宣教の働きはここからスタートします。「キリストのからだ」として互いに愛し合い、互いに助け合い、互いに補い合い、互いに支え合い、互いに主のビジョンに向かって働きます。からだのなかで必要のない部分、役に立たない器官はひとつもないですよ。それと同じようにここにいるお一人お一人はキリストのからだを建て上げるために大切な役割を担っているんです。

たいせつなことなので何度も言いますね。わたしがこの教会、キリストのからだに属していて、この役割を担当させていただいている。そしてわたしだけではなく、ほかの方々も同じキリストのからだに属していて、わたしたちはともに賜物を用いて宣教をしていく。ということです。

キリストのからだを意識するとき、私たちは一人ではないということに気づくでしょう。仲間がいます。家族がいます。決して一人ぼっちにならないでください。私たちは一人では弱いということを告白しましょう。キリストのからだがこの16節のとおり働くとき、わたしたちはきっと経験します。わたし一人が成長した、ではなく、わたしたちが一緒に成長したと。わたし一人がキリストのように変えられた、ではなく、わたしたちが一緒にキリストのように変えられたと。このからだにつながりましょう。そして喜びを、成長をともに味わっていきましょう。祈ります。